

学生大使 実施報告書

ラトビア大学 平成 28 年 2 月 29 日～平成 28 年 3 月 16 日

人文学部 人間文化学科 1 年 松岡俊

・日本語教室での指導内容

ラトビア大学では月曜日から金曜日の 16 時 30 分～18 時と 18 時 30 分～20 時の 2 回にわけて日本語教室が行われている。日本語教室は、15 歳の少女から 30 間近の社会人まで幅広い年代の人が参加していた。参加するのは個人の自由であるため、たまに参加する生徒と頻繁に参加する生徒の間に知識のばらつきがみられた。1 日 2 回の授業のうち、片方をビギナーズクラス、もう一方をアドバンスクラスと位置づけ、大まかにレベルを分けて授業を行った。多い時で 1 クラス 10～15 人、少ない時で 1 クラス 3 人など日によって来る人数や人が変わるため、頻繁に参加してくれる生徒へは飽きられないように、たまに参加する生徒へは難しすぎないようにとバランスをとるのが非常に難しかった。

ビギナーズクラスの授業では板書はすべて平仮名に統一し、さらにその平仮名にローマ字で読み方を記した。扱った内容は自己紹介、服の買い方、道の尋ね方、手紙の書き方などである。

アドバンスクラスの授業では平仮名、片仮名、漢字を用いて板書を行った。ローマ字による読み方の表記はせず、漢字の読み方を平仮名で記して統一した。扱った内容はことわざ、漢字の対義語、敬語などである。

両方のクラスで、茶道や寿司、箸の持ち方、かるたなど日本の文化を紹介したり、早口言葉や回文などの言葉遊びを授業の合間に取り入れるなどして、単調な授業にならないように工夫した。またペアワークを取り入れ、私たち日本人が巡回しそれぞれのペアにアドバイスをすることで、クラスが活性化するよう心掛けた。

・日本語教室以外での現地での交流活動

授業のみの交流で終わる生徒から出会ったその日に自宅へ招いてくれる生徒まで様々な生徒がいた。遊びに誘ってくれた生徒はリガ市内の案内や、市内にある日本風のレストランへ連れていくなどしてくれた。また休日には電車やバスを利用して市街にも連れて行ってくれた学生もいる。その時は森の上にある展望台から絶景を眺めたり、民族衣装をみせてもらった。様々なところへ連れて行ってもらったが、一番多かったのは日本語教室が終わった後にみんなでご飯を食べに行くという流れだ。リガ市内にある飲食店まで歩いていき、ご飯を食べながら談笑をした。

・プログラムに参加した感想

私は今回の学生大使が初めての海外であったため、成田空港に入った時点から驚きの

連続であった。パスポートを渡航直前にとり、飛行機の搭乗経験がないにもかかわらずヘルシンキ空港での乗り換え時間が45分の非常に短いチケットを購入するなど、全体的に事前準備に大きな抜かりがあった。日本語教室においても、生徒の知識にばらつきがあるため、事前に用意していた授業を大きく変更し、時にはアドリブで授業をし、生徒を退屈にさせてしまった時もあった。授業中に英語で問われる質問も、聞き取れず何度も尋ね返し、ようやく聞き取れた質問も答えるための英語が出てこず、何度ももどかしく悔しい思いをした。日本語を話せるから教えることができるというのは大きな間違いであると思い知らされたプログラムであった。

反省すべき点が非常に多かった今回の渡航だが、海外に出ることで日本を客観的な視点から見ることができ、治安の良し悪しや老後の生活保障などについて改めて考えるいい機会にもなった。それと同時に日本の自治問題や歴史の変遷について、学ぶ必要があることを強く自覚した。

至らない点ばかりであったが、人間的な成長と視野の拡大化が実現したため、このプログラムに参加してよかったと思っている。

・今後の展望

今回のラトビアへの渡航では授業の準備不足や日本語の知識不足が目立ったため、そこを補ったうえで今度は違う国に学生大使として行ってみたい。失敗や後悔をそのまま終わらせずに、何が原因だったかを分析したうえでもう一度挑戦してみたい。また違う国と記したが、ラトビアが嫌いなわけではなくいろんな国の文化や雰囲気、食習慣、伝統などについて学びたいからである。留学も視野に入れながら様々な国に少しずつ触れていきたい。